

日本学術会議 基礎医学委員会 IUPHAR 分科会(第26期・第1回) 議事録

1. 開催日時 令和5年12月27日(水)13:00~14:00

2. 開催場所 オンライン会議

3. 出席者

13名中12名

出席者: 赤羽悟美、池谷裕二、金井好克(前期委員長、世話人)、黒川洵子(幹事)、小泉修一(副委員長)、西谷友重、新田淳美、日比野浩、古屋敷智之(委員長)、三澤日出巳、南雅文、村松里衣子(幹事)

欠席者: 上田泰己

(以上敬称略)

4. 議題

(1) 委員長の選出について

国内外の関連学会における活動実績、日本学術会議における活動実績に基づき、第26期IUPHAR分科会委員長として古屋敷委員が互選により選出された。

(2) 副委員長、幹事の選出について

国内外の関連学会における活動実績に基づき、第26期IUPHAR分科会副委員長として小泉委員が、幹事として黒川委員、村松委員が互選により選出された。

(3) 今期の活動について

前期委員長の金井委員より、日本学術会議の主な役割の一つは日本を代表するアカデミーとして国際学術交流を推進することであること、IUPHAR分科会はIUPHARの活動主体であり、学協会等と連携しつつも、広い視点で日本学術会議のミッションのもとで活動していることが説明された。

第26期の活動として、以下のIUPHAR分科会の設置目的を確認した。

「薬理学・創薬科学に関連する学術基盤を整備すると共に、国際薬理学連合(IUPHAR—International Union of Basic & Clinical Pharmacology)および国内外の関連学会と連携して基礎薬理学研究の発展を目指す。当分科会において、薬理学・創薬科学に関する学術事項、およびその学際的・国際的連携に関すること、IUPHARの各部門との連携の強化、国際的プレゼンスの維持・向上、さらには次世代を担う国際的人材の育成に関する事項について審議し、必要な提言の発出やシンポジウムの開催等について検討する。」

以下のIUPHAR分科会の審議事項を確認した。

1. 薬理学・創薬科学に関する学術事項
2. 学術的・国際的連携に関する事項
3. IUPHARの各部門との連携に関する事項
4. 国際的プレゼンスの維持・向上に関する事項
5. 国際的人材の育成に関する事項

学協会との連携として、以下の方針を確認した。

1. 学術的シンポジウム等を提案し、「薬理学の位置づけ」と「薬理学の貢献」について啓発活動を行うこと。
2. 生命科学としての「薬理科学」を促進し、「薬理科学」のアウトリーチや若手育成を促進すること。

IUPHARのexecutive committeeの体制や選考の仕組みについても説明があった。IUPHARのexecutive committeeで日本のプレゼンスを示すには、IUPHARの各セクションや関連組織での実質的な活動を継続・強化することが求められていることを確認した。

(4) その他について

分科会での意見交換を促進するため、分科会の委員の間でメールのやり取りを行う際には、メールアドレスを開示しても良いことが承認された。

IUPHAR分科会の活動を促進するため、IUPHARの国内外関連学会での活動実績が豊富な研究者を特任連携会員として推薦することとした。